

富山大学 学報

第234号

目

学 長 告 辞	2
関 係 法 令	3
学 内 規 則	4
富山大学経営短期大学部学則の一部改正	4
富山大学物品管理事務取扱細則の一部改正	5
富山大学図書館資料管理事務取扱規則の一部改正	6
富山大学学則の一部改正	7
富山大学高岡短期大学創設準備室規則の制定	7
富山大学高岡短期大学創設準備委員会規則の制定	8
富山大学公印管理規則の一部改正	9
富山大学文理学部の廃止に伴う関係規則を整理 する規則の制定	9
諸 会 議	10
学 事	12
昭和58年度文部省在外研究員派遣予定者の決定	12
昭和58年度科学研究費補助金（海外学術調査） 交付内定	12
昭和58年度日本学術振興会特定国派遣研究者の 決定	12

次

人 事 異 動	13
学 内 諸 報	14
名誉教授の称号授与	14
海外渡航者	15
寄 稿〈ロンドンから帰って〉	15
保健管理センターだより〈デビスカップ〉	17
職 員 消 息	18
主 要 行 事	20
資 料	22
昭和58年度富山大学入学者数	22
昭和58年度大学院入学者数	23
昭和58年度専攻科入学者数	23
昭和58年度経営短期大学部入学者数	24
昭和58年度富山大学学部学生数	24
昭和58年度大学院学生数	25
昭和58年度専攻科学生数	25
昭和58年度専攻生，聴講生，研究生数	25
昭和58年度経営短期大学部学生数	26
附属図書館利用統計	26

学 長 告 辞

昭和58年度入学式学長告辞

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。本日 1,367名にのぼる新進気鋭の新入生の諸君をお迎えすることができましたことは、富山大学にとっても誠に喜ばしいことであります。大学という所は諸君のような若い血が毎年入れ替っていくことによって、その永遠の若さを保ち得ると共に、新しい方向に向かって前進することができるのだと思います。

さて、諸君はいよいよ学校教育における最後の段階まで昇りつめてこられ、これからそれぞれ専門の学業を学ぶことになるわけですが、将来社会人となって一本立ちする場合に、大学で学んだことがいきなり役立つところまでは仲々行きつけないと思います。大学では将来の活躍のための基礎を学ぶのだということを十分わきまえていただきたいと思います。そしてその大学生活の中で教養部時代の1年半という時期が、基礎造りのまた基礎を築く時期に当たります。したがって、大学生活で最も大切な時期は、明日からはじまる教養部時代であるといえると思います。この時期に十分な根を張っておかないと、行先何事につけて根無し草のようになってしまうことでしょう。

ではここでいう基礎とは何かということについて、私の意見を申し上げて諸君に考えていただきたいと思います。私のいう基礎というのは、学習面では学習態度、生活面では生活態度を中心に置いた考え方でありまして、それらを大学生活の中で身につけてほしいということです。

学習態度について私が諸君に求めたいのは、常に探究する心をもってほしいということです。平たく言えば、好奇心を忘れるなということです。育ち盛りの幼児をみてご覧なさい。母親に対して「これ何なの」、「それはどうしてなの」と執拗に食い下ってくるでしょう。あの気持を思い起こしてほしいのです。

さてここで好奇心を持てといっても、どのような方向に目を向けるかによって、本物になるか安っぽくなるかが決ってくるのだと思います。これまで諸君は義

務教育を終って、高校での教育を経てきましたが、その期間中教えられた各科目については、文部省の決めた学習指導要領というのがあって、先生方はそれに基づいて、一つ一つの科目の間口についても奥行についても、一つの枠の中で諸君を教えてきました。いってみれば、これまで諸君はいろいろな学問分野の表面だけをみてきたわけです。ところが大学には学習指導要領もなければ、決った枠もない。大学では先生方は御自身の教育方針で臨まれますが、諸君はそれをうのみにする必要はない。諸君は自分が主体となって学習すべきなのです。一つ一つの講義の意味するもの、その底に流れるもの、他の講義とのかかわりなどについて好奇の目を向ける必要があります。

要は週間誌的な上っ面な物の見方では困るのです。例えば家庭内暴力、校内暴力が問題になれば、その学校やその家庭の周辺をみて細々と報導する。これに対して戦後教育のあり方にまで拡げてみる見方も出る。しかし、それでもまだ視野は狭いと思います。いまこの世界中で、この問題に悩んでいるのはわが国ばかりではない。先進諸国と呼ばれる国々のすべてで問題になっているという現実にも掘り下げて考えるべきだと思います。学問の世の中でも同じです。日本人は人のまねばかりするといわれていますが、それは学問上の表面に出てきた目立つことに目をつけて、いったんそれを手懸けると、とことんまで掘り下げるとというのがこれまでのやり方でした。私はこの行き方を否定する者ではありません。事実この行き方で日本は世界中で経済大国といわれるまでに発展したのですから。しかし、世界中からこの点で目の敵にされているという現状を踏まえると、将来もこのままでよいとは決して思えません。そこで他人の気の付かないような、底流にあるものの中から何かをつかみとること、これしかありません。これこそが創造の原点だと思うのです。諸君は明日からの学習に当たって、はじめは自分の興味の中心をオリ処にして、飽くなき好奇のまなこをも

って、深く深く掘り下げて物を考えるという習慣を身につけてください。そうしているうちに、将来世に出てから次第に自分の専門が何か分からなくなるくらい、幅と奥行のあるがっちりとした基盤が構築されていくことだと思います。

以上、私は諸君の明日からの学習態度のあるべき姿について私見を申し述べてきましたが、こういった物の見方とか好奇心とかいうものは、先生方が授業中に問題に応じていちいち教えて下さるといった事柄ではありません。諸君が自分で自覚して実行しない限り、だれも手助けしてくれません。また将来世に出ても、こういうことはだれも教えてはくれません。にもかかわらず、何をするにも真の基礎として必要な事柄なのです。この点を十分身につけるように学ぶところが大学なのだと思って下さい。

次に学習の面とは別に、学園生活についての基礎的な問題を考えてみましょう。大学という所は学問研究をすると同時に、共同生活を営む場でもあるという点を考えていただきたい。諸君はこれから、教職員学生、附属の生徒児童も合わせると 7,500 名近くもの人達との共同生活に入るわけです。ここでくれぐれも心に止めておいていただきたいことは、事、日常生活に関する限り、大学は一般社会とは別個のものではないということです。昔、学生にはある種の特権のようなものが社会的にも認められており、かなり勝手な行動もとれたものでしたが、現在の社会はそれ程甘くありません。そのような社会環境のもとで諸君は大学生活をす

るわけですが、その場合、ただ単に大学に入ったから、大学があるからそこにいるといった消極的態度ではなく、自分たち学生は大学という共同生活社会の中でどんな位置を占めているのか、富山大学を学問の府らしい大学にするには自分たちの力で何ができるか、何をすべきかということを積極的にしかも建設的に考えていただきたい。これが自治の精神だと思います。大学では教官、職員、学生のそれぞれがその職責に応じて自治的活動をし、相互に理解し配慮し合うことによって大学全体としてのまとまりが生れてくるのだと思います。自治というのは決して何をやってもよい、自分の主張さえ通ればよいというものでもないことはもちろんです。諸君は大学生活の間に、真の自治の精神とは何かということを十分に考え、それを身につけて下さい。自治の精神も、諸君が将来社会人として活動する場合の基礎となる事柄であると思います。

最後に新入生の皆様に御報告します。富山大学では、現在高岡市にある工学部がこの 1、2 年でこの五福地区に移転統合されることが決まり、今年入学された工学部の学生諸君は在学中に新校舎に移ることになります。統合大学として、全員が一つのキャンパスで学ぶことができる。こんな望ましい姿はありません。これからは全学の学生諸君自らの手によって、この富山市五福界隈を学園地区にふさわしい、活気溢れる雰囲気で包み込んでいただきたい。私はこのお願いをこめて、本日の栄ある入学式の告辞を終わりたいと思います。

関係法令

(官報掲
載月日)

政 令

- 行政機関職員定員令及び沖縄の復帰に伴う行政機関の職員の定員に関する法律の適用の特別措置に関する政令の一部を改正する政令(67) 4・5
- 公立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償の基準を定める政令の一部を改正する政令(74) 4・5
- 日本育英会法施行令の一部を改正する政令(87) 4・5

省 令

- 文部省定員規則の一部を改正する省令 (文部 8) 3・31 (号外)
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令 (文部 9) 3・31 (号外)
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令 (文部10) 3・31

	(号外)	一部を改正する規則（人事院2－3）	4・5
○国立大学の大学附置の研究所の研究部門 に関する省令の一部を改正する省令 （文部11）	3・31	○人事院規則（特殊勤務手当）の一部を改 正する規則（人事院9－30）	4・5
	(号外)	○人事院規則（俸給の特別調整額）の一部 を改正する規則（人事院9－17）	4・15
○国立大学共同利用機関組織運営規則の一 部を改正する省令（文部12）	3・31	○人事院規則（特殊勤務手当）の一部を改 正する規則（人事院9－30）	4・15
	(号外)	○人事院規則（特地勤務手当等）の一部を 改正する規則（人事院9－55）	4・15
○国立大学共同利用機関組織運営規則及び 教育公務員特例法施行令第3条の2の規 定に基づく国立大学共同利用機関の長等 の選考の手續に関する省令の一部を改正 する省令（文部13）	3・31	告 示	
	(号外)	○臨床検査技師、衛生検査技師等に関する 法律に規定する学校として指定する件 （文部50）	4・22
○文部省設置法施行規則の一部を改正する 省令（文部17）	4・5	○理学療法士及び作業療法士法に規定する 学校として指定する件（文部51，52）	4・22
○文部省定員規則の一部を改正する省令 （文部18）	4・5	○大学の位置を変更する件（文部53）	4・22
○教育職員免許法施行法規則の一部を改正 する省令（文部19）	4・22	○短期大学の位置を変更する件 （文部54，55）	4・22
○国家公務員等の旅費支給規程の一部を改 正する省令（大蔵25）	4・30	○技能審査を認定した件（文部56）	4・22
規 則		○日本育英会法施行令の規定による研究所 等を指定した件の一部を改正する件 （文部57）	4・23
○人事院規則（人事院事務総局の組織）の		○日本育英会法施行令の規定による試験所 又は研究所として指定した件（文部58）	4・23

学 内 規 則

富山大学経営短期大学部学則の一部改正

富山大学経営短期大学部学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和58年 3 月24日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学経営短期大学部学則の一部を改正する学則

富山大学経営短期大学部学則（昭和34年 4 月 1 日制
定）の一部を次のように改正する。

第34条中「志願するものは、」を「志願する者は、」
に、同条第 4 号を次のように改める。

（ 4 ）検定料 5,600円

第36条中「入学料として10,000円」を「入学料とし
て12,000円」に改める。

附 則

1. この学則は、昭和58年 4 月 1 日から施行する。
2. 昭和58年度の聴講生の入学に係る検定料の額は、
第34条第 4 号の規定にかかわらず、なお従前の例に
よる。

▶ 富山大学経営短期大学部学則の改正理由

字句を整備するほか、本学の聴講生の検定料及び入学料の額を改訂するため。

富山大学物品管理事務取扱細則の一部改正

富山大学物品管理事務取扱細則の一部を改正する細則を次のとおり制定する。

昭和58年 4 月 6 日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学物品管理事務取扱細則の一部を改正する細則

富山大学物品管理事務取扱細則（昭和35年 4 月22日制定）の一部を次のように改正する。

第15条の2中「物品管理換承認申請書」を「物品管理換伺」に改める。

別表第3の1中「図書」を「図書館資料」に改める。

別表第3の2 2 分任物品出納官中「受入係長」を「閲覧係長」に、「図書」を「図書館資料」に改める。

別紙第1号様式（第1葉）及び別紙第6号の2様式をそれぞれ次のように改める。

別紙第1号様式

(第1葉)					原 符		請 求 番 号		第 号						
部 局 名					記入上の注意 ①一品一葉を原則とする。 ②備品・消耗品は別葉とする。 ③購入物品で取得後直ちに供用される消耗品は逐次払出するものを除き連記で記入できる。ただし、取扱業種区分が異なる場合は別葉とする。 ④物品の修理及び改造の請求は備考欄に明示し当該物品の備品番号を記入する。 ⑤物品の取得に係る必要事項は備考欄に記入する。（寄附物品、管理換物品、発生材、生産品等） ⑥規格は詳細に記入する。										
物品供用官	請求者														
請 求	年 月 日														
使用場所															
理 由															
備 考															
品 目	規格・容量	数量	単 価	価 格	国立学校庁用品		記号	番号	異 約 数 量			現 在 高			備 考
					細分類	種 類			増	減	その他	貸付 寄託	保管	計	
			円	円											

別紙第6号の2様式

昭和		年度		部局名		物 品 管 理 換 伺										No.			
学 長	事 務 局 長	経 理 部 長 (物品 管理 官)		主 計 課 長		課 長 補 佐		総 務 係 長		係		事 務 長	事 務 長 補 佐	会 計 係 長	係				
												起 案	月 日						
												決 裁	月 日						
管 理 換 の 内 容	品 目	数 量	単 価	価 格	管 理 換 前			管 理 換 後											
					分 類	細 分 類	種 類	分 類	細 分 類	種 類									
管理換を必要とする 理 由						相手方の物品管理官等 官職氏名													
						管理換に係る対価													
						管理換をする(受ける) 相手方の同意年月日													

備考 物品の管理換に伴って分類換を必要とする場合は「物品管理換伺」とあるのを「物品管理換（分類換）伺」とすること。

附 則

この細則は、昭和58年4月6日から施行し、昭和58年4月1日から適用する。

▶富山大学物品管理事務取扱細則の改正理由

- 1 管理換の承認を、申請及び承認を同時に決裁する方法により行うこととするため。
- 2 附属図書館に属する分任物品出納官を閲覧係長とするため。

富山大学図書館資料管理事務取扱規則の一部改正

富山大学図書館資料管理事務取扱規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和58年4月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学図書館資料管理事務取扱規則の一部を改正する規則

富山大学図書館資料管理事務取扱規則（昭和35年4月22日制定）の一部を次のように改正する。

別表1 分任物品出納官中「受入係長」を「閲覧係長」に改める。

附 則

この規則は、昭和58年4月12日から施行し、昭和58年4月1日から適用する。

▶ 富山大学図書館資料管理事務取扱規則の改正理由

富山大学物品管理事務取扱細則が改正されたため、所要事項を改める。

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和58年 4 月15日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和25年 1 月20日制定）の一部を次のように改正する。

第66条第 2 項中「5,000円」を「5,600円」に、「30,000円」を「36,000円」に改める。

第67条第 4 項中「5,000円」を「5,600円」に、「10,000円」を「12,000円」に改める。

別表第 1 の人文学部の項中「ロシア語・ロシア文学」を「ロシア語・ロシア文学
比較文学」に改める。

別表第 2 中

「

人文学部	人文学科	90名	340名
	語学文学科	80名	320名

」を

「

人文学部	人文学科	90名	350名
	語学文学科	80名	320名

」に、

「

合	計	1,195名	4,760名
---	---	--------	--------

」を

「

合	計	1,195名	4,770名
---	---	--------	--------

」に改める。

附 則

- 1 この学則は、昭和58年 4 月15日から施行し、昭和58年 4 月 1 日から適用する。
- 2 昭和58年度の専攻生、研究生及び聴講生の入学に係る検定料の額は、第66条第 2 項及び第67条第 4 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

▶ 富山大学学則の改正理由

- 1 富山大学における専攻生、聴講生等に係る検定料及び入学料を改訂するため。
- 2 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の改正に伴い、所要事項を改めるため。
- 3 人文学部の学年進行之に伴い、所要事項を改めるため。

富山大学高岡短期大学創設準備室規則の制定

富山大学高岡短期大学創設準備室規則を次のとおり制定する。

昭和58年 4 月15日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学高岡短期大学創設準備室規則

（設 置）

設準備室（以下「創設準備室」という。）を置く。

第 1 条 富山大学（以下「本学」という。）に、高岡短期大学が創設されるまでの間、高岡短期大学の創設準備に関する事務を処理するため、高岡短期大学創

（職 員）

第 2 条 創設準備室に、室長、総主幹、総務主幹その他必要な教職員を置く。

2 室長は、本学の学長又は教授をもって、総主幹及び総務主幹は事務職員をもって充てる。

(創設準備委員会)

第3条 本学に、創設準備室の行う創設準備に関する事務のうち教員の人事その他創設準備に関する重要事項を審議する機関として、高岡短期大学創設準備委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(細 目)

第4条 この規則に定めるもののほか、創設準備室及び委員会の運営等に関する細目については、学長が定める。

附 則

1 この規則は、昭和58年 4 月15日から施行し昭和58年 4 月 1 日から適用する。

2 創設準備室の教員には、富山大学教員の停年に関する規則（昭和32年 2 月 8 日制定）は、適用しないものとする。

3 創設準備室の教員は、富山大学学長選考基準（昭和28年 5 月28日制定）の規定にかかわらず、学長選挙資格を有しないものとする。

4 この規則は、高岡短期大学が設置された日にその効力を失う。

5 富山大学短期高等教育機関（高岡）創設準備室規則（昭和56年 4 月17日制定）は、廃止する。

富山大学高岡短期大学創設準備委員会規則の制定

富山大学高岡短期大学創設準備委員会規則を次のとおり制定する。

昭和58年 4 月15日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学高岡短期大学創設準備委員会規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、富山大学高岡短期大学創設準備室規則第4条の規定に基づき、高岡短期大学創設準備委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。ただし、教員の人事に関する事項を審議するときは、第4号の者を除く。

(1) 学長

(2) 室長

(3) 学部長及び教養部長

(4) その他学長が必要と認めた者

(議 事)

第3条 委員会は、室長が招集し、その議長となる。ただし、教員の人事に関する事項を審議するときの委員会は、学長が招集し、その議長となる。

2 室長（前項ただし書の場合は学長。以下同じ。）に事故あるときは、室長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

(専門委員会)

第4条 委員会に、専門的事項を調査研究するため、必要に応じて専門委員会を置く。

2 専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶 務)

第5条 委員会の庶務は、高岡短期大学創設準備室において処理する。

附 則

1 この規則は、昭和58年 4 月15日から施行し、昭和58年 4 月 1 日から適用する。

2 この規則は、高岡短期大学が設置された日にその効力を失う。

3 富山大学短期高等教育機関（高岡）創設準備委員会規則（昭和56年 4 月17日制定）は、廃止する。

▶富山大学高岡短期大学創設準備室規則及び富山大学高岡短期大学創設準備委員会規則の制定理由

高岡短期大学等の創設準備等組織要項（昭和58年 4 月 1 日 文部大臣裁定）の実施に伴い、従前の規則を整理する必要があるため。

富山大学公印管理規則の一部改正

富山大学公印管理規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和58年 4 月16日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学公印管理規則の一部を改正する規則

富山大学公印管理規則（昭和48年 4 月13日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1 庁印中

「	文理学部	富山大学文理学部の印	28	人文学部・ 理学部事務 長	人文学部・ 理学部庶務 係長	」
---	------	------------	----	---------------------	----------------------	---

を削る。

別表第2 官職印中

「		富山大学短期高等教育機関 （高岡）創設準備室長の印	23	庶務課長	文書係長	を
---	--	------------------------------	----	------	------	---

「		富山大学高岡短期大学創設 準備室長の印	23	庶務課長	文書係長	に
---	--	------------------------	----	------	------	---

改め、

「	文理学部	富山大学文理学部長の印	30	人文学部・ 理学部事務 長	人文学部・ 理学部庶務 係長	」
---	------	-------------	----	---------------------	----------------------	---

を削る。

附 則

この規則は、昭和58年 4 月16日から施行し、昭和58年 4 月 1 日から適用する。

▶富山大学公印管理規則の改正理由

- 1 文理学部が存続しなくなったことに伴い、所要事項を改めるため。
- 2 富山大学短期高等教育機関（高岡）創設準備室が廃止され、新たに富山大学高岡短期大学創設準備室が設置されたことに伴い、所要事項を改めるため。

富山大学文理学部の廃止に伴う関係規則を整理する規則の制定

富山大学文理学部の廃止に伴う関係規則を整理する規則を次のとおり制定する。

昭和58年 4 月28日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学文理学部の廃止に伴う関係規則を整理する規則

第1条 富山大学学部補導委員会規則（昭和24年 8 月 5 日制定）の一部を次のように改正する。

附則（昭和42年 5 月19日）第 3 項を次のように改める。

3 この規程を各学部又は教養部において適用する場合は、規程中「学部」とあるのは、「人文学部」、

第2条 富山大学文書処理規則（昭和24年12月 2 日制定）の一部を次のように改正する。

別表中

「富大文庶第 号 文理学部庶務関係所管のもの

富大文経第 号 文理学部経理関係所管のもの

富大文学第 号 文理学部学務関係所管のもの」を削る。

第3条 富山大学職業相談所規則（昭和24年12月 2 日制定）の一部を次のように改正する。

第4条 富山大学事務分掌内規（昭和39年 2 月10日制定）の一部を次のように改正する。

附則第 3 項中

「文理学部 富山高等学校

富山県立富山高等学校」を

第5条 富山大学構内交通規制に関する暫定実施細目（昭和53年 3 月31日制定）の一部を次のように改正する。

「教育学部」、「経済学部」、「理学部」、「工学部」又は「教養部」と、「学部長」とあるのは、「人文学部長」、「教育学部長」、「経済学部長」、「理学部長」、「工学部長」又は「教養部長」と読み替えるものとする。

第 3 条中「文理学部事業所」を削る。

「人文学部 文理学部文学科

・理学部 文理学部理学科

富山高等学校

富山県立富山高等学校」に改める。

別表第 2 1 職員及び学生等中「（文理学部文学科の学生を含む。）」及び「（文理学部理学科の学生を含む。）」を削る。

附 則

この規則は、昭和58年 4 月28日から施行し、昭和58年 4 月 1 日から適用する。

▶富山大学文理学部の廃止に伴う関係規則等を整理する規則の制定理由
富山大学文理学部が存続しなくなったことに伴い、所要事項を改めるため。

諸 会 議

昭和58年度第 1 回学寮補導委員会（ 4 月 7 日）

（報告事項）

(1)入寮選考委員会について

（審議事項）

(1)学寮の諸問題について

(1)運営委員会委員長の選出

(2)センター長の推薦

(3)次期計算機専門委員の推薦

(4)広報・教育小委員の選出

第 3 回学長候補適任者選定委員会（ 4 月14日）

第 1 回計算機センター運営委員会（ 4 月 7 日）

（審議事項）

昭和58年度第 1 回事務協議会（ 4 月14日）

(審議事項)

- (1)当面の諸問題について

昭和58年度第1回評議会（4月15日）**(報告事項)**

- (1)昭和58年度入学状況について
(2)転学科について
(3)工学部校舎新営工事の開始について
(4)学生の動向について

(審議事項)

- (1)富山大学学則の一部改正(案)について
(2)富山大学名誉教授称号授与規則の一部改正(案)について
(3)富山大学名誉教授称号授与規則施行細則の一部改正(案)について
(4)富山大学高岡短期大学創設準備室規則の制定(案)について
(5)富山大学高岡短期大学創設準備委員会規則の制定(案)について
(6)次期学生部長候補者の選考について
(7)富山大学名誉教授称号授与について
(8)学長事務代理について
(9)学長選挙投票日の授業について
(10)富山大学学則の全部改正について

昭和58年度第2回学寮補導委員会（4月18日）**(報告事項)**

- (1)予備折衝の結果について

(審議事項)

- (1)学寮の意義について
(2)今後の給食形態について

昭和58年度富山大学廃水処理室運営委員会専門委員会（4月21日）**(審議事項)**

- (1)廃水処理施設の整備について

授業料等減免選考委員会（4月21日）**(審議事項)**

- (1)昭和58年度学部入学生の入学料免除について
(2)昭和58年度大学院、専攻科学生の入学料免除について

昭和58年度第1回補導協議会（4月21日）**(報告事項)**

- (1)補導協議会委員について
(2)文化部会2号委員並びに3号委員について
(3)体育部会3号委員について

(審議事項)

- (1)福利厚生施設（食堂）の新営について
(2)第28回大学祭並びに第7回体育祭について

昭和58年度第1回低温液化室運営委員会（4月25日）**(審議事項)**

- (1)昭和58年度運営費等について
(2)委員長の互選について

昭和58年度第3回学寮補導委員会（4月25日）**(報告事項)**

- (1)予備折衝の結果について

(審議事項)

- (1)学寮の意義について
(2)今後の給食形態について

昭和58年度第1回放射性同位元素総合実験室運営委員会（4月25日）**(審議事項)**

- (1)昭和58年度総合実験室使用許可申請について
(2)昭和57年度収支決算及び昭和58年度運営費について

第4回学長候補適任者選定委員会（4月28日）**第4回学長選考管理委員会（4月28日）****昭和58年度第1回学園ニュース編集委員会（4月28日）****(報告事項)**

- (1)学園ニュース編集委員について

(審議事項)

- (1)第42号学園ニュースの発行計画について

第2回計算機センター運営委員会（4月28日）**(報告事項)**

- (1)業務報告

(審議事項)

- (1)昭和58年度運営費予算案について
(2)昭和59年度概算要求について
(3)研究開発室長の選出について

計算機センター運営委員会広報・教育小委員会（4月28日）

(3)計算機センター年報(第8号)の発行計画について

（審議事項）

- (1)昭和58年度の講習会実施計画について
(2)昭和58年度の講演会実施計画について

昭和58年度第1回保健管理センター委員会(4月30日)

（審議事項）

- (1)次期保健管理センター所長候補者の選考について

学 事

昭和58年度 文部省在外研究員派遣予定者の決定

種 類	所 属	職	氏 名	主たる滞在地名及び派遣先の機関名(当該滞在地の属する国名)	調 査 研 究 題 目	派 遣 間 期 間
長 期 (乙)	理 学 部	助 手	中村 省吾	ウッズ・ホール ボストン大学海洋 課程海洋生物学研 究所 (アメリカ合衆国)	真核生物の纖手・鞭毛運動機構	12 月

昭和58年度 科学研究費補助金（海外学術調査）交付内定

研 究 代 表 者			研 究 課 題	調 査 国	交付内定額 (千円)
所 属	職	氏 名			
人文学部	教授	和崎洋一	スワヒリ語圏における多言語使用と「スワヒリ化」に関する比較調査(第二次)	タンザニア国, ケニア国, ザイール国, ルワンダ国, ブルンディ国	11,000

昭和58年度 日本学術振興会特定国派遣研究者の決定

所 属	職	氏 名	派 遣 先 (同機関)	研 究 課 題	派 遣 間 期 間
人文学部	教 授	藤井 一行	ソビエト連邦 (科学アカデミー世界文学研究所)	初期ソビエト政権の文化政策の研究	1 月
"	助教授	夫馬 進	中華人民共和国 (中国社会科学院)	明清都市社会の研究	10

人事異動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採用	58. 4. 13	小 森 道 緒		事務補佐員（高岡短期大学創設準備室）	富山大学長
	58. 4. 16	丹 羽 洋 介		助教授（教育学部）	文部大臣
	"	中 河 伸 俊		講師（教養部）	富山大学長
	58. 5. 1	奥 村 讓		"（"）	"
	"	酒 井 千世美		教務補佐員（教育学部）	"
昇 任	58. 4. 5	桶 喜 一	経理部主計課管財係管財主任	庶務部庶務課企画係長	"
	"	五百崎 喜 明	庶務部人事課職員係職員主任	国立立山少年自然の家庶務課庶務係長	国立立山少年自然の家所長
	"	谷 口 和 則	文部事務官（工学部）	庶務部人事課職員係職員主任	富山大学長
	"	矢 後 和 子	"（庶務部人事課）	" " 給与係給与主任	"
	"	高 邑 英 市	"（経理部主計課）	経理部主計課管財係管財主任	"
転 任	"	林 征 紀	人文学部・理学部用度係長	国立立山少年自然の家庶務課会計係長	国立立山少年自然の家所長
	"	宮 崎 康 之	文部事務官（附属図書館）	文部事務官（国立立山少年自然の家事業課）	"
配 置 換	"	湊 馨	庶務部庶務課企画係長	人文学部・理学部用度係長	富山大学長
	"	雁 田 彰	" 人事課任用係任用主任	庶務部庶務課企画係企画主任	"
	"	斉 藤 純 一	" " 給与係給与主任	" 人事課任用係任用主任	"
	"	田 嶋 ス ミ	文部事務官（経理部経理課）	文部事務官（経理部主計課）	"
	"	杉 本 周 平	"（庶務部庶務課）	"（工学部）	"
併 任	"	桶 喜 一	庶務部庶務課企画係長	富山大学高岡短期大学創設準備室	"
	"	雁 田 彰	" " 企画係企画主任	"	"
	58. 4. 8	金 田 稔	文部技官（経理部経理課自動車運転手）	文部技官（国立立山少年自然の家庶務課自動車運転手）	国立立山少年自然の家所長
	58. 4. 25	世 利 幹 雄	教授（教養部）	評議員（58. 4. 25～60. 4. 24）	文部大臣
	"	杉 本 新 平	"（"）	"（"）	"
	58. 5. 1	村 中 一 男	工学部管理係長	工学部工場係長（58.10.17まで）	富山大学長
職務命令	58. 4. 5	杉 本 周 平	文部事務官（工学部）	工学部庶務係人事主任を命ずる 庶務部庶務課企画係企画主任を免ずる	"
	"	谷 口 和 則	"（"）	工学部庶務係人事主任を免ずる	"
休 職	58. 5. 1	稲 垣 日出男	工学部工場係長	国家公務員法第79条第1号により休職にする（58.10.17まで）	"
辞 職	58. 4. 30	梶 原 和 枝	文部事務官（経営短期大学部）	辞職を承認する	"
死 亡	58. 4. 7	吉 崎 歳 光	文部技官（経理部経理課）	死 亡	富山大学経営短期大学部学長

学 内 諸 報

名誉教授の称号授与

昭和58年 4 月停年退職された次の方々に対し、昭和58年 4 月15日付けで富山大学名誉教授の称号が贈られた。



名誉教授

石瀬 秀治

京都帝国大学文学部哲学科卒業
文学士

昭和20年12月富山高等学校講師，同24年 6 月富山大学助教授（文理学部），同28年 8 月富山大学助教授（経済学部），同39年 2 月富山大学教授（経済学部）となり，37年余りの永きにわたり終始熱心に学生の教育指導に専念された。

この間，富山大学経済学部長 1 期，評議員 3 年 4 か月を務め本学の管理・運営に寄与された。



名誉教授

竹内豊三郎

北海道帝国大学理学部化学科卒業
理学博士

昭和26年 8 月富山大学教授（文理学部），同52年 5 月文理学部改組に伴い理学部に配置換となり，31年余りの永きにわたり終始熱心に教育・研究に専念された。

この間，文理学部長 2 期，学長事務取扱 4 か月，理学部長 3 期，トリチウム科学センター長 3 年，評議員として本学の管理・運営に寄与された。

一方，物理化学の教授として研究に従事し，ラジオアイソトープを利用した指紋検出法の発見や合金触媒の反応機構の研究は数多く引用され国際的に高く評価されており，さらに，我が国ではじめてトリチウムを

さらに，本学経営短期大学部主事 2 期を務め，同短期大学部の教育・研究の発展にも尽力された。

一方，社会学の教授として研究に従事され，研究論文として「マックス・ウェーバーの理解社会学に関する若干の批判」，著書には「社会学史講義案（上巻）」等発表され，本学のみならず地域社会の発展に貢献された。

用いた研究に着手，その業績が基盤となり富山大学にトリチウム科学センターが設置された。

さらに，触媒化学会副会長，日本化学会各種役員を歴任するとともに教科書審査委員として我が国の高等学校教育の向上に尽力され，また，国際学術交流の面でも数多くの国際学会へ出席され，特に第 5 回日ソ触媒セミナーでは日本側団長，第 7 回国際会議では実行委員長として各国際会議を成功に導くなどその功績はまことに顕著なものがある。

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外 国 出 張	教育学部	教 授	相馬 恒雄	インドネシア	ムハマディア教員養成・教育大学等を訪問し、教育及び教員養成計画に関する意見交換を行い、両大学の交流計画の発展に資する	58. 4. 2)
		"	加瀬正二郎			
		助教授	中村 義朗			58. 4. 9
		助 手	結城 善之			
海外研修旅行	"	教 授	田中 晋	"	"	"
		助 手	杉本 啓郎			

寄 稿

〈ロンドンから帰って〉

昨年 3 月 15 日、10 か月の在外研究に出発し、モスクワ、コペンハーゲン、ストックホルムを経て、3 月 26 日にロンドンに着いた。ロンドンでは、北部郊外の移民むけに建てられた住宅街にセミデタッチド・ハウス（2 軒長屋）を借りた。表札のない 2 階建の似かよった家が広い道路の両側に整然と並び、東方約 2.5 キロ先にはロンドンでは最も小高いハムステッド・ヒースの公園がみえる。ここから徒歩 17 分、地下鉄 25 分の通学距離にあるラッセル・スクウェアの高等法律研究所にかようことになった。

ロンドン大学は 1827 年中産階級むけに設立され、今はロンドンに散在する 46 のカレッジや研究所などの集合体である。この研究所はその一つとして 1946 年に設立され、諸外国の法律関係の文献を集めた図書館が充実している。そのため、イギリスの法学者や判事・院生などが出入りすると同時に、諸外国から多くの在外研究者が訪問している。所長のダイヤモンド教授はあまりこないで、ボックスホール事務局長が運営の中心である。大木の繁った小公園の前にある研究所を訪れてインビティション・レターをみせると、司書が入館許可証を作ってくれ、事務局長に会って 30 ある専用読書机の一つを与えてもらう。この図書館は午前 10 時から午後 8 時まで開かれており、1 階の受付でコート

経営短期大学部教授 松 嶋 道 夫
とカバンをあずけ、4 階の受付で名前を記入して図書館に入るとあとは開架図書を自由にみれる。必要な本をさがして、2 段の本棚とカギのついた書類ケースのある簡易しきりの専用机で読書する。コピーが必要になると、受付で 5 ペンス硬貨に両替してもらって、1 枚毎に硬貨を入れてコピーする。3 台あるコピー機は昼間は順番の列ができる。フル回転なのでよく紙づまりなどで動かなくなり、そのたびに司書に修理をたのむ。読書につかされると地階にある談話室で 1 ぱい 10 ペンスの自動販売機のコーヒーを飲んで休憩し、訪問の研究者と意見交換する。朝 10 時 45 分には事務局長の主催するティータイムがあり、ロンドン大学のスタッフと訪問研究者との顔つなぎをしてくれる。講演会や研究会、パーティなどの案内がときどき受付にあるボックスに入れられており、参加できる。訪問研究者は国際色が豊か、研究所のスタッフも親切で利用上の制約が少ないので窮屈な感じはない。昼食はいくつかある安い大学食堂ですが、半分は口に合わない。外食は高いので時々弁当をもってきて小公園で食べる。近くのブリティッシュ・ミュージアムの中にあるブリティッシュ・ライブラリーは学長の出張証明書で許可証をもらい、ときどき入館したが、その蔵書はすごい。

大学のキャンパスに日本のような囲いがないので、

大学外の施設との区別がつきにくい、大学にパブがあったり、教会があったり、大きな書店や、立派なコレクションの美術館もあって、日本の大学とずい分違う。イギリスの大学の予算は大部分が国の予算で、奨学金も多く給与制、小人数教育・個人指導に特色がある。オープン・ユニバーシティという放送大学も発達している。テレビを年88ポンドで貸借りし、早朝の講座をときどきみるが内容はよい。また、一週に1日とか2日だけ仕事を免除されてカレッジで勉強するパートタイム・コース、一定期間会社で仕事をして一定期間（年約18週）カレッジで学ぶサンドウィッチ・コース、あるいはイブニング・コースなどがあり、大学卒業後パートタイム・コースで教員などの資格をめざす院生も少なくなく、勤労者教育が高等教育に開かれている。

家族法の研究をするので、家族生活からも学ぶため、ロンドンでの8ヶ月間家族を呼んだ。小学2年の二女が公立校にかよふことになった。女の校長に会うと、全くABCも知らないのに、心よく入学させてくれた。それもなぜか年令より一つ上のジュニア・クラスに入れ、1年前にきた日本では3年生の子が下のクラスになり、その母親が抗議してあとで同じクラスになった。学校の教育には校長の裁量が強いようだ。これまで移民を多く受け入れているので、話せないのは障害でなく、学校の責任で語学教育をしてくれる。午前中は学校の車の送迎で語学センターで教育し、午後は学校のクラスで勉強していた。20人程度のクラスで画一でない能力に応じた指導はよいが、うちの子はもっぱら計算や絵をかいていて、いつも同じことをさせると子供は不満をもらしていた。給食費以外は金はいらないが、学校も財政難でバザーや少額の寄付を求める行事も少なくない。寄付の程度で教師の反応も違うらしく、帰国近くに10ポンド寄付したら、校長から子供をほったらかしてすまないという手紙とパーティの招待状がきてびっくりした。

イギリス家族は夫婦中心で、家庭内では夫は妻にやさしくサービスがよい。子供は大きくなれば自立し離れていくものと考えているから、子供の自主制にまかせる面が多いようだがしつけはきびしく、路上で妥協せずにおこっている母親の姿をときどきみかける。一般に子供は16才で義務教育を終えると親も子も一人前になったと考えるようで、子供は仕事につくか、継続教育・大学教育を受ける場合でも奨学金でいき親の金はあてにしない。奨学金の枠が減ると大学への入学者が減るという。日本の子供が親の金で大学へいきいつ

までも親と同居していることを不思議がる。子供の家庭教師をしてくれたロンドン大学の女子学生が一つの絵本を私にすすめた。それは、夫が食後あとかたづけをし、小さい子供がひとりで寝れずに親のところにくるのを、夫婦が交互に何度も説得し、本を読み、遊んでやり、つかれて子供が寝ると夫婦が肩を組み合って自分達の寝室へいくものだった。そこにイギリス家族の典型が示されていた。どうも日本の夫は亭主関白で、親は子に過保護にみえるらしい。

イギリスの老人も強い。近くに老人夫婦が何組も住んでいたが、ななめむかえのひとりぐらしの老母のところには週末になると子供夫婦が孫をつれて訪れ、夕方家の前で長い抱擁で別れをおしむ姿をよくみかけた。イギリスの老人は子に依存しない。親子は距離をおいた親しさを保っている。家族の被護者より、独立した社会の一員でありたいと思っている。統計によると約80%近くの老人は子と同居していない。年金は必ずしも十分とはいえず、稼働やたくわえなどの他収入も必要のようだが、子には頼らず、独立は尊いものだと思っている。福祉もこういう生き方に対応しているようにみえる。昼間のバスは無料パスの老人がいっぱい、公園では日なたぼっこ、古い衣装でおしゃれして美術や音楽や芝居の観賞をしている姿をよくみかける。老人がふけこんでいないのがよい。

ロンドンには大小の公園がたくさんあり緑が豊か。郊外に出れば牧歌的田園風景がみられる。山がないせいだろう。公園はどれも広い芝生と大木が調和し、四季の花がきれい。フットボール、クリケットなどのスポーツや野外音楽会そして天気の良い日には水着姿で日光浴する姿がまぶしい。無料の公園はよく散歩し、ジョギングもした。また、イギリス人は古いものを保存するのが好きで美術館・博物館が多い。大英博物館・国立美術館など無料でその収集品はすごい。また劇場が多く、音楽や芝居が安くてよいものがみられ、文化の豊かさを感じた。しかし、こうした公園や美術などは、その多くが、権力者がその財力と権力で作り、集めたものが今は庶民に開放されたものだが、これらを見ると権力者がいかにぜいたくをつくっていたかをみせつけられる。権力と搾取と美は通じるものがあるようだ。

イギリス経済は不況で失業率は高く（約14%）、高物価でストライキも多い。約3週間の地下鉄ストライキには困ったが、イギリス人はさわがず忍耐強い。2階のバスは動いていたが6人立つ人がいると車掌は絶対に乗せてくれないので、片道2時間歩いて3度通

学した。地下鉄は高いが半分が禁煙車というのがよい。キップは行先ではなくて料金をいって買うが、無人のはり紙があったり、人員不足で係がいないので先で払えと売ってくれないことがときどきある。日本ならどこから乗ったと詮索されて困るだろうが、ロンドンでは料金を言って渡せばまず信用し何も言わない。バスも車掌がきたときにフォーティとかエイティといってキップを買うが、どこから乗ったとかどこまで行くとかは聞かないし、車掌がなくてキップが買えないときは料金をあずけて降りる人もみかける。ごまかす人もいると思うが大部分の人は正直である。人の自主性とか疑うことより信用することからくるプラスを大事にしていることは気持ちよく感じた。もっとも、イギリスの警察はピストルをもたず治安は欧米ではよいというものの、盗みなど多い。地下鉄でサイフをすやれたが、家にドロボウが入ると言う話はよく聞く。語学学校の女性教師の話では、家を留守にするときはいつも厚いカーテンは開けてうすいレースのカーテンのみにして電燈をつけて留守でないようにみせて出かけるという。また、電話を受けるとき名前をいわずに番号で応えるのも女性が身を守る心得だといっていた。

税金が30%と高いが、不況で財政難ながら医療費が

無料（昨年10月から1年内の旅行者など有料）で、美術館も有料にすると庶民がみれないと無料でがんばっている。独立採算、受益者負担主義の日本とずい分違う。文化の豊かさと福祉の広がりには心に残った。滞在中はフォークランド（マルビナス）戦争の真最中、新聞・テレビはいつもトップで生々しく、首相が正義の戦争を叫び、女王が軍隊を激励する。戦場が遠いせいか街は意外に平静であり、反核などのデモも大きかった。しかし、戦勝の記録やキャンペーンなどをみると平和の尊さを感じた。

12月28日離英し、帰途ヨーロッパ4ヶ国を経て今年1月15日帰国した。到着後、日本人の服装がよいこと、商品が豊富で生活に便利さを感じたが、反面、管理の強い窮屈さを感じた。10ヶ月の経験では外国を語るには短かいが、歴史と文化の違う国での経験は有意義であったとともに、日本のよさを再認識するところも多かった。

▶ 筆者は、文部省在外研究員長期甲種として、昭和57年3月15日から昭和58年1月15日まで10か月間連合王国などヨーロッパ各国に外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

保健管理センターだより

〈デビスカップ〉

たまたま新聞紙上の「デ杯 日本——韓国戦 組合わせ決まる」という小さい見出しが目につき、20年ばかり前にDavis Cupについて辞書を調べまわったのを思い出しました。当時なら1段でなく恐らく3段抜きの見出しがついたのではないかと考えると年月の流れを感じました。

日本で出版されている英語の辞書をみると、かなり小さく語彙も相当少ない小型の辞書にでもDavis Cupという項目があって「1900年アメリカの政治家D. F. Davis が国際庭球試合のために寄贈した優勝銀杯」といったような記述がみられ、ドイツ語の辞書にさえ類似の記載がみられました。しかし英米の辞書類には、ウィンブルドンはあっても、デビスカップという項目はありませんでした。たしか大英百科事典のテニスの項目の中でも比較的軽く触れられている程度でした。

保健管理センター所長 浅井 亨
ウィンブルドンなどと比べて雲泥の差がある扱いに思え、どうして日本でだけ、デビスカップが極端に特別扱いを受けるのか調べているうちに1921年デ杯戦に初参加した日本チームが、フランスを破ったインドに5-0で勝ち、オーストラリアを4-1でくだして前年の覇者アメリカに挑戦したことを知りました。その当時の日本国内の大騒ぎがその後日本で印刷される英語の辞書にDavis Cupという項目をたてさせたのだろーと思っていました。また、アメリカ学生選手権者Dwight Filley Davis がハーバード大学を卒業した年にカップを寄贈したのですが、彼自身後に閣僚になったり、フィリピン総督になっていますので政治家デビスが寄贈したカップとなったものと思っていました。もっとも彼が入閣した30代大統領の大統領選挙における対立候補が彼と同姓の別のDavisであったことも影響して

いるのかなと考えていました。

英米の百科辞典にさえ、その項目がないデビスカップが「日本国語大辞典」には堂々と項目があがっていることに最近気付くと同時に新しい発見をしました。この辞典によればデビスカップには「1900年以後のチャレンジラウンド進出の両国名・試合場所・選手名・年齢・スコアが刻まれている」ということです。これで長年の疑問が氷解しました。デビスカップには、ともかくも、熊谷、清水の名前と日本の国名が刻まれているのです。

もう一つ気が付きましたのは、例えば、エンサイクロペディア アメリカーナでは、デビスカップがmen's world team championship すなわち男子チーム世界選手権の象徴であるとしているのに、日本国語大辞典の方はデビスカップマッチは「デビスカップ獲得をめざして行われる国対抗の4シングルスと1ダブルスのテニス試合」であるとしていることです。どちらの表現も間違いとは言えませんが態度の違いが認められます。本来スポーツは個人やチームの戦いだらうと思っ

ている筆者は、オリンピックで日の丸が何本というお国柄とアメリカ人の何とかいう日本姓の選手が活躍すると大騒ぎする日本のマスコミの異常さをここにも見た気がしました。

スポーツが国家間の代理戦争となって平和が保たれるのなら大いに結構ですが、国外で飛行機事故でもあると日本人が含まれているかいないかが最大の関心事であるかの如き報道がなされ、愛国心の昂揚、軍備の一層の増強が叫ばれる昨今です。そうしてみると、何も関係はないのかも知れませんが日本での英語辞書にデビスカップが広くなるようになったのもどうやらデ杯戦で日本チームが善戦した1921年からずっと後の1930年代の半ば以降のことらしいのが気になります。わずかな救いは最近の英和辞典の中には、デビスカップという項目のないものができたことです。これが日本でのプロテニスの大衆化や他の多様なスポーツの定着、デ杯戦に対する評価や関心の変化だけによるのではないようにと念じてやみません。

職 員 消 息

訃 報

文部技官 吉崎歳光氏逝去

経理部経理課文部技官吉崎歳光氏は脳幹部出血のため4月7日逝去されました。

享年58才

ここに御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

吉崎技官は昭和43年10月富山大学教育学部に採用され、昭和44年12月経理部経理課に配置換えとなり、この間14年5か月余りにわたり造園手として誠実な人柄とまじめな勤務でよくその職務を全うされました。

《新任者》

教育学部

助 教 授 丹羽 洋介
(絵 画)

教務補佐員 酒井千世美
(彫 塑)

教 養 部

講 師 中河 伸俊
(社会学)

〃 奥村 譲
(英 語)

高岡短期大学創設準備室

総 主 幹 江田 晴夫

附属養護学校教諭 松沢 敏彦

事務補佐員 小森 道緒

会 計 主 任 吉澤 誠

《住所変更》

庶 務 部

任 用 主 任 齊藤 純一

理 学 部

助 手 野口 宗憲

経 理 部

主計課課長補佐 森 慶二

工 学 部

庶 務 主 任 田中 崇子

人文学部

事務長補佐 田中 昇

教 養 部

助 教 授 中越 矩方

教育学部

助 教 授 佐々木 浩

事務補佐員 三浦みより

// 山地 啓司

トリチウム科学センター

助 手 松山 政夫

附属中学校教諭 小山 裕子

主 要 行 事

本 部

- 4 月
2～5 日 入学手続
7 日 計算機センター運営委員会
第1回学寮補導委員会
8 日 第3回学長選考管理委員会
構内交通対策委員会
11 日 昭和58年度入学式
第1回入学者選抜方法研究委員会専門委員
会
昭和58年度入学生オリエンテーション
(14日まで)
12 日 部局長懇談会
新入生健康診断
13 日 昭和58年度学校基本調査説明会
(於、名古屋大学)
14 日 第1回事務協議会
第3回学長候補適任者選定委員会
15 日 第1回評議会
18 日 第2回学寮補導委員会
19 日 第2回入学者選抜方法研究委員会専門委員
会
21 日 廃水処理専門委員会
授業料等減免選考委員会
第1回補導協議会
23 日 大学と高校との懇談会(於、名古屋大学)
25 日 第3回学寮補導委員会
26 日 東海・北陸地区春季部課長会議
(於、医科薬科大学)
27～28 日 第62回東海・北陸地区国立学校等会計部課
長会議(於、金沢大学)
28 日 第4回学長候補適任者選定委員会
第4回学長選考管理委員会
第21回全国大学保健管理研究集会第1回
運営委員会(於、金沢大学)
第1回学園ニュース編集委員会
30 日 第1回保健管理センター委員会

人 文 学 部

- 4 月
2～5 日 文学専攻科入学手続
8 日 学部教務委員会
学部補導委員会
教授会
12 日 新入生オリエンテーション及び健康診断
前学期授業開始
13 日 学部職業補導委員会
19 日 学部教務委員会
20 日 学部補導委員会
教授会
人事教授会
27 日 学部補導委員会
紀要委員会
学部将来計画委員会
4 年次学生就職関係等説明会
28 日 予算委員会

教 育 学 部

- 4 月
4～5 日 春季北陸地区教員養成学部事務長協議会
(於、新潟大学)
6 日 附属小学校第1学期始業式
7 日 前学期授業開始
附属中学校第1学期始業式
附属養護学校第1学期始業式
附属幼稚園第1学期始業式
附属小学校入学式
8 日 附属中学校入学式
附属養護学校入学式
11 日 附属幼稚園入園式
12 日 新入生オリエンテーション及び健康診断
13 日 学部教務委員会・補導委員会合同会議
学部教務委員会
教授会

人事教授会
20日 紀要編集委員会
26日 学部補導委員会
27日 学部教務委員会
学部職業補導委員会
教授会

工学研究科委員会
13日 学部補導委員会
14日 前学期授業開始
25日 係長連絡会
27日 学部教務委員会
学部補導委員会

経済学部

4月6日 各種委員選考委員会
7日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
8日 前学期授業開始
12日 新入生オリエンテーション
14日 学部施設整備委員会
18日 日本海経済研究所運営委員会
20日 学部教務委員会
人事教授会
教授会
論集委員会
27日 学部将来構想検討委員会
28日 学部補導委員会

理学部

4月
2～5日 大学院理学研究科入学手続
8日 教授会
人事教授会
12日 新入生オリエンテーション及び健康診断
14日 学部補導委員会
学部図書委員会
15日 前学期授業開始
25日 教育実習委員会

工学部

4月6日 学部教務委員会
7日 教授会
12日 新入生オリエンテーション・健康診断
専任教授会

教養部

4月6日 教養部教務委員会
教務・補導合同委員会
教養部補導委員会
教授会
人事教授会
10日 教養部オリエンテーション
13日 教養部図書委員会
教官定員配置検討委員会
将来計画委員会
20日 教養部補導委員会
予算委員会
27日 教授会

※行事予定 5月25～26日

全国国立大学教養部長・事務長協議会
(於、鳥取大学)

附属図書館

4月5日 係長事務打ち合わせ会
11日 図書館オリエンテーション
21～22日 第34回北信越地区国立大学図書館協議会
(於、新潟大学附属図書館旭町分館)
25日 図書館業務電算化研究会

トリチウム科学センター

4月22日 運営委員会
25日 教育訓練

保健管理センター

4月12日 新入生健康診断
 28日 第21回全国大学保健管理研究集会
 第1回運営委員会（於、金沢大学）
 30日 保健管理センター委員会

経営短期大学部

4月
 1～4日 昭和58年度入学手続
 7日 第1回教授会

第1回財務委員会
 11日 入学式
 オリエンテーション
 第2回教授会（持ち回り）
 12日 新入生歓迎会
 13日 前学期授業開始
 14日 定期健康診断
 21日 第1回将来構想委員会
 22日 第3回教授会（持ち回り）

◇訂 正（おわび）

学報 昭和58年4月1日発行 第233号

ページ	訂 正 箇 所	誤	正
13	学事の外国人研究者の 取扱いについての項目 中、英文の標題	CONCERNING EQREIGN RESEARCHERS	CONCERNING FOREIGN RESEARCHERS
19	人事異動の配置換の欄、 下から2行目	増 井 重 吉	増 井 重 信

資 料

昭和58年度富山大学入学者数

区 分	募 集 人 員	入 学 者 数	入 学 者 内 訳						
			男	女	県 内	県 外	現 役	浪 人	大学検定
人 文 学 部 人 文 学 科	90	90(58)	32	58	39 (32)	51 (26)	78 (53)	12(5)	0
人 文 学 部 語 学 文 学 科	80	80(68)	12	68	59 (51)	21 (17)	71 (61)	9(7)	0
計	170	170(126)	44	126	98 (83)	72 (43)	149 (114)	21(12)	0
教育学部小学校教員養成課程	140	140(113)	27	113	125 (104)	15 (9)	119 (99)	21(14)	0
教育学部中学校教員養成課程	50	50(31)	19	31	42 (26)	8 (5)	41 (25)	9(6)	0
教育学部養護学校教員養成課程	20	20(15)	5	15	14 (12)	6 (3)	17 (14)	3(1)	0
教育学部幼稚園教員養成課程	30	30(30)	0	30	24 (24)	6 (6)	26 (26)	4(4)	0
計	240	240(189)	51	189	205 (166)	35 (23)	203 (164)	37(25)	0
経 済 学 部 経 済 学 科	120	120(12)	108	12	64 (8)	56 (4)	83 (12)	37(0)	0
経 済 学 部 経 営 学 科	120	120(30)	90	30	56 (25)	64 (5)	93 (28)	27(2)	0
経 済 学 部 経 営 法 学 科	60	60(16)	44	16	30 (11)	30 (5)	48 (14)	12(2)	0
計	300	300(58)	242	58	150 (44)	150 (14)	224 (54)	76(4)	0

理学部数学科	40	40(14)	26	14	26 (13)	14 (1)	38 (13)	2 (1)	0
理学部物理学科	40	40(4)	36	4	14 (1)	26 (3)	25 (3)	15 (1)	0
理学部化学科	40	40(16)	24	16	22 (11)	18 (5)	28 (14)	12 (2)	0
理学部生物学科	30	30(9)	21	9	8 (5)	22 (4)	18 (7)	12 (2)	0
理学部地球科学科	30	30(4)	26	4	4 (1)	26 (3)	16 (3)	14 (1)	0
計	180	180(47)	133	47	74 (31)	106 (16)	125 (40)	55 (7)	0
工学部電気工学科	50	50(0)	50	0	28 (0)	22 (0)	45 (0)	5 (0)	0
工学部工業化学科	45	45(5)	40	5	23 (4)	22 (1)	43 (5)	2 (0)	0
工学部金属工学科	40	40(0)	40	0	25 (0)	15 (0)	28 (0)	12 (0)	0
工学部機械工学科	50	50(0)	50	0	22 (0)	28 (0)	40 (0)	10 (0)	0
工学部生産機械工学科	40	40(0)	40	0	26 (0)	14 (0)	34 (0)	6 (0)	0
工学部化学工学科	40	40(2)	38	2	20 (2)	20 (0)	31 (2)	9 (0)	0
工学部電子工学科	40	40(2)	38	2	26 (1)	14 (1)	29 (1)	11 (1)	0
計	305	305(9)	296	9	170 (7)	135 (2)	250 (8)	55 (1)	0
合 計	1,195	1,195(429)	766	429	697(331)	498 (98)	951 (380)	244 (49)	0

(注) () 内数字は女子で内数を示す。

昭和58年度大学院入学者数

区 分		募集人員	入学者数	入 学 者 内 訳					
				男	女	県 内	県 外	現 役	浪 人
理学研究科	数 学 専 攻	8	2 (0)	2	0	0	2 (0)	2 (0)	0
	物 理 学 専 攻	8	5 (1)	4	1	2 (1)	3 (0)	4 (1)	1 (0)
	化 学 専 攻	10	9 (0)	9	0	4 (0)	5 (0)	9 (0)	0
	生 物 学 専 攻	8	4 (0)	4	0	1 (0)	3 (0)	4 (0)	0
	地球科学専攻	8	5 (1)	4	1	2 (1)	3 (0)	5 (1)	0
	計	42	25 (2)	23	2	9 (2)	16 (0)	24 (2)	1 (0)
工学研究科	電気工学専攻	10	7 (0)	7	0	4 (0)	3 (0)	7 (0)	0
	工業化学専攻	10	5 (0)	5	0	1 (0)	4 (0)	5 (0)	0
	金属工学専攻	8	9 (0)	9	0	8 (0)	1 (0)	9 (0)	0
	機械工学専攻	10	3 (0)	3	0	1 (0)	2 (0)	3 (0)	0
	生産機械工学専攻	8	3 (0)	3	0	1 (0)	2 (0)	3 (0)	0
	化学工学専攻	8	6 (0)	6	0	4 (0)	2 (0)	6 (0)	0
	電子工学専攻	8	8 (0)	8	0	3 (0)	5 (0)	8 (0)	0
	計	62	41 (0)	41	0	22 (0)	19 (0)	41 (0)	0
合 計		104	66 (2)	64	2	31 (2)	35 (0)	65 (2)	1 (0)

(注) () 内数字は女子で内数を示す。

昭和58年度専攻科入学者数

区 分		募集人員	入学者数	入 学 者 内 訳					
				男	女	県 内	県 外	現 役	浪 人
文 学 専 攻 科		10	14 (5)	9	5	7 (5)	7 (0)	12 (4)	2 (1)
教 育 専 攻 科		5	6 (5)	1	5	5 (4)	1 (1)	6 (5)	0
経 済 学 専 攻 科		10	0	0	0	0	0	0	0
合 計		25	20 (10)	10	10	12 (9)	8 (1)	18 (9)	2 (1)

(注) () 内数字は女子で内数を示す。

昭和58年度経営短期大学部入学者数

区 分	募集 人員	入学 者数	入 学 者 内 訳						
			男	女	県 内	県 外	現 役	浪 人	大学検定
経 営 管 理	60	55	31	24	50 (23)	5 (1)	35 (18)	20 (6)	0
経 営 ・ 法 律	40	31	23	8	25 (6)	6 (2)	14 (5)	16 (3)	1
計	100	86	54	32	75 (29)	11 (3)	49 (23)	36 (9)	1

※ 入学者の出身県別欄については出身校で区分した。なお、県内欄の法律及び計に大検1(0)を含む。
(注) ()内数字は女子で内数を示す。

昭和58年度富山大学学部学生数

(昭和58年5月1日現在)

学 部	区 分 学科(課程)	入学 定員	総 定員	教 養 部						学 部						合 計		
				1 年 次			2 年 次			3 年 次			4 年 次			男	女	計
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
人文学部	人文学科	90	350	31	58	89	46	51	97	47	36	83	49	46	95	173	191	364
	語学文科学科	80	320	12	68	80	26	58	84	37	57	94	35	56	91	110	239	349
	計	170	670	43	126	169	72	109	181	84	93	177	84	102	186	283	430	713
教育学部	小学校教員養成課程	140	560	27	113	140	49	91	140	33	106	139	41	112	153	150	422	572
	中学校教員養成課程	50	200	19	31	50	28	25	53	29	23	52	30	23	53	106	102	208
	養護学校教員養成課程	20	80	5	15	20	3	18	21	1	18	19	0	19	19	9	70	79
	幼稚園教員養成課程	30	120	0	30	30	0	29	29	1	29	30	0	36	36	1	124	125
	計	240	960	51	189	240	80	163	243	64	176	240	71	190	261	266	718	984
経済学部	経済学科	120	480	108	12	120	118	7	125	105	9	114	138	7	145	469	35	504
	経営学科	120	480	90	30	120	113	16	129	107	14	121	127	19	146	437	79	516
	経営法学科	60	240	44	15	59	62	8	70	50	4	54	55	6	61	211	33	244
	計	300	1,200	242	57	299	293	31	324	262	27	289	320	32	352	1,117	147	1,264
理学部	数学科	40	160	26	14	40	36	7	43	40	6	46	31	9	40	133	36	169
	物理学科	40	160	36	4	40	46	4	50	46	4	50	34	3	37	162	15	177
	化学科	40	160	24	16	40	27	17	44	24	15	39	24	15	39	99	63	162
	生物学科	30	120	21	9	30	24	12	36	24	8	32	16	10	26	85	39	124
	地球科学科	30	120	26	4	30	34	6	40	28	3	31	24	4	28	112	17	129
	計	180	720	133	47	180	167	46	213	162	36	198	129	41	170	591	170	761
工学部	電気工学科	50	200	50	0	50	59	0	59	56	0	56	47	0	47	212	0	212
	工業化学科	45	180	40	4	44	47	4	51	49	4	53	31	5	36	167	17	184
	金属工学科	40	160	40	0	40	47	3	50	48	2	50	38	0	38	173	5	178
	機械工学科	50	200	50	0	50	65	0	65	56	0	56	48	0	48	219	0	219
	生産機械工学科	40	160	40	0	40	45	0	45	50	0	50	34	0	34	169	0	169
	化学工学科	40	160	38	2	40	50	0	50	54	4	58	23	1	24	165	7	172
	電子工学科	40	160	38	2	40	43	1	44	44	0	44	36	2	38	161	5	166
	計	305	1,220	296	8	304	356	8	364	357	10	367	257	8	265	1,266	34	1,300
合 計		1,195	4,770	765	427	1,192	968	357	1,325	929	342	1,271	861	373	1,234	3,523	1,499	5,022

昭和58年度大学院学生数

(昭和58年5月1日現在)

区 分		入 学 定 員	総定員	1 年 次			2 年 次			合 計		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計
理 学 研 究 科	数 学 専 攻	8	16	2	0	2	4	0	4	6	0	6
	物 理 学 専 攻	8	16	4	1	5	6	0	6	10	1	11
	化 学 専 攻	10	20	9	0	9	9	0	9	18	0	18
	生 物 学 専 攻	8	16	4	0	4	3	2	5	7	2	9
	地 球 学 専 攻	8	16	4	1	5	5	0	5	9	1	10
	計	42	84	23	2	25	27	2	29	50	4	54
工 学 研 究 科	電 気 工 学 専 攻	10	20	7	0	7	3	0	3	10	0	10
	工 業 化 学 専 攻	10	20	5	0	5	5	2	7	10	2	12
	金 属 工 学 専 攻	8	16	9	0	9	5	0	5	14	0	14
	機 械 工 学 専 攻	10	20	3	0	3	4	0	4	7	0	7
	生 産 機 械 工 学 専 攻	8	16	3	0	3	2	0	2	5	0	5
	化 学 工 学 専 攻	8	16	6	0	6	6	0	6	12	0	12
	電 子 工 学 専 攻	8	16	8	0	8	6	0	6	14	0	14
	計	62	124	41	0	41	31	2	33	72	2	74
合 計		104	208	64	2	66	58	4	62	122	6	128

昭和58年度専攻科学生数

(昭和58年5月1日現在)

区 分	入学定員	男	女	合 計
文 学 専 攻 科	10	* 10	* 6	16
教 育 専 攻 科	5	1	5	6
経 済 学 専 攻 科	10	0	0	0
合 計	25	11	11	22

※は57年度入学生
1名含む

昭和58年度専攻生，聴講生，研究生数

(昭和58年5月1日現在)

区 分	専 攻 生			聴 講 生			研 究 生		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人 文 学 部				3	6	9	1	0	1
教 育 学 部				10	6	16			
経 済 学 部				1	0	1	1	0	1
理 学 部				2	0	2	5	0	5
工 学 部				1	0	1	11	0	11
教 養 部				0	1	1	7	2	9
合 計				17	13	30	25	2	27
学 部 卒 以 上				17	10	27	24	2	26
上 記 以 外				0	3	3	1	0	1
合 計				17	13	30	25	2	27

昭和58年度経営短期大学部学生数

(昭和58年5月1日現在)

区 分	入学 定員	総 定員	1 年 次			2 年 次			3 年 次			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
経営学 経営管理専攻	60	180	31	24	55	44	8	52	45	15	60	120	47	167
経営学 経営・法律専攻	40	120	23	8	31	28	14	42	30	12	42	81	34	115
計	100	300	54	32	86	72	22	94	75	27	102	201	81	282

附属図書館利用統計

利用状況

(昭和57年10月～58年3月)

区 分	入館者数	館 外 貸 出						参考業務 利 用 数	文献複写利用数			
		教 職 員		学 生		計			受 付		依 頼	
図書館本館	117,931 ^人	1,074 ^人	7,243 ^冊	8,838 ^人	12,033 ^冊	9,912 ^人	19,276 ^冊	405 ^件	2,977 ^件	12,046 ^枚	486 ^件	5,271 ^枚
工学部分館		1,232	3,586	2,031	4,918	3,263	8,504	172			201	1,255
合 計	117,931	2,306	10,829	10,869	16,951	13,175	27,780	577	2,977	12,046	687	6,526

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画
富山市曙町9-1
電話 (33) 3356 (代)